

第3学年国語科学習指導案

公開授業①

日 時 令和7年11月18日（火）

児 童 3年1組 23名

指導者 佐藤 清彦

- 1 単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

教材名 「すがたをかえる大豆」（国語 三（下）あおぞら 光村図書）

- 2 単元について

（1）教材観

本単元で扱う内容は、学習指導要領には以下のように位置付けられている。

〔知識及び技能〕

- （2）話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。

- （3）我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと

- （1）書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

- （2）(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

C 読むこと

- （1）読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

- （2）(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。

本単元では、「すがたをかえる大豆」を読んで説明の仕方の工夫を理解し、それらを活用して児童自身が人に伝えたいと思う食べ物について、説明する文章を書くことで、本単元で育成を目指す資質・能力の定着を図ることをねらいとしている。「読むこと」については、文章の構成を押さえた上で、事例が順序立てて列挙されていることや、「次に」「さらに」といった接続語が使われていることの理解を通して、段落相互の関係に着目しながら筆者の意図に迫っていく。その際、写真資料が効果的に使われていることなどにも気付かせることで理解の深化を図ることができる。「書く

こと」については、本文を読むことで見つけた文章構成や事例整理の工夫を生かして、読み手にとって分かりやすい文章を書くことを主眼とする。また、一連の活動の中で、書籍を使って調べたり、集めた情報を整理したりと、読書や情報整理に関わる内容も身に付けることができる。調べる対象を身近な料理やその原料が取り上げられていることから、料理に関する語彙の拡充といった食育の観点からも、また家庭科の学習へとつながることからも意義をもつ題材と言える。

(2) 児童観

本学級は、学習に対して意欲的に取り組む児童が多い。また、国語科の授業や読み物教材の内容に関心をもって向かうとともに、学級文庫を通して食べ物に関する科学読み物の読書にも親しみをもっている児童が多い。一方で、最後まで話を聞いたり、集中して学習に取り組んだりすることに課題が見られる児童や物事にマイペースに取り組む児童もいる。また、問いかけられたことを正しく理解して自分の思いを積極的に伝えられる児童は限られているなど、個人差も見られるため、学習の指示や説明を補う手立てや個別の支援を講じていく必要がある。

第3学年上巻「文様」「こまを楽しむ」では、「始め」「中」「終わり」といったまとまりや、「中」の事例の述べ方に注意して読むことを学習した。この学習を通して、説明的文章が3つに分解されるということや、「始め」が問いや問題提起、「中」がその答えや例示、「終わり」がまとめであるというそれぞれの役割について読み取ることができた。同じく第3学年上巻「仕事のくふう、見つけたよ」では、組み立てを考えて報告文を書いた。そこで、本単元では、事例の選び方やその順序性に関して、読み手の立場で着目し、書き手の立場として工夫して分かりやすい文章を書くことを目指していく。

(3) 指導観

第一次では、大豆を加工してできる食品をどれほど知っているかを調査し、教材に対する関心を高める。また、単元のゴールとして「書くこと」の活動を行うことを知らせ、そのために「読むこと」が必要であることを単元計画や目標を立てることで実感させる。

第二次では、「始め」「中」「終わり」の文章構成をつかませる。「こまを楽しむ」で学習したそれぞれの役割（問い、具体例、まとめ）を想起させるとともに、この文の「始め」には、これまでと同じような「～でしょうか。」「～ですか。」といった形での「問い」がないことに気付かせる。その上で、本文中に「くふう」という言葉が何度も登場することや、段落の一文目に工夫が書かれていることに着目して、「おいしく食べるくふう」という中心の話題に沿って「中」が展開されていることに気付かせたい。また、「中」の段落の順序性を考える活動を通して、単元のめあてでもある「れいの書かれ方のくふう」に迫っていく。

第三次では、これまで学習した「おいしく食べるくふう」の「れいの書かれ方」に着目し、食べ物のひみつを説明する文章を書く。自分で決めた材料を科学読み物・本を通じて調査し、それを基に文章を作成していく。

第四次では、感想を交流させることで互いの文章のよいところについて実感させ、事例を挙げて分かりやすく説明するための工夫について今後の学習で生かそうという思いをもたせたい。

研究に関わっては、以下の通りである。

手立て1【対話を生み出すための工夫】については、単元を通して、自分の考えをノート、あるいは教科書に書いたあとで交流時間を設定していく。書くことに時間を要する児童も、書こうと考えることで立場を明らかにすることになるので、書き終わらないことも認めていく。また、手立て

2 【対話の充実を図るための工夫】については、交流する際に、自分の考えと友達のかえの共通点や相違点を見つけさせ、自分の考えを深め、広めることで、研究主題である自ら学ぼうとする子どもを育成したい。

3 単元の計画

(1) 単元の目標

- ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。
(知(2)ア)
- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
(知(3)オ)
- ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思B(1)イ)
- ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思C(1)ア)
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。(2)ア ② 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ	① 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。B(1)イ ② 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。C(1)ア	① 粘り強く段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりしながら、学習の見通しをもって、自分が選んだ食べ物について文章を書こうとしている。

(3) 指導と評価の計画(全13時間)

次	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等
1	1	①教科書P43を見て、大豆について知っていることを話す。 ②教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。	
2	2	③「始め」「中」「終わり」に分け、文章の組み立てを確かめる。 ④「中」の具体的な例を整理する。	・知① それぞれのまとまりのおおまかな内容を捉えたうえで、「中」の例について整理して捉えている。【発言・記述】

	3	⑤「始め」に「問い」を入れるとしたら、どこに、どのような文を入れるかを考えることで、文の中心を捉える。	
	4	⑥「中」の書かれ方を考える。 ⑦具体例（3段落～7段落）について読み取り、短くまとめる。	
	5 (本時)	⑧どのような順序で例が挙げられているのかを捉える。	・思② 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【発言・記述】
	6 ・ 7	⑨筆者の説明の工夫をまとめ、考えを交流する。 ⑩食べ物について書かれた本を読み、感想を友達に伝える。	・態① 粘り強く段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係について、学習の見通しをもって、筆者の説明の工夫をまとめようとしている。【発言・記述】
3	8 ・ 9	⑪「問いをもとう」「もくひょう」を基に、これからの学習の見通しをもつ。 ⑫取り上げる材料を決め、調べたことを表などに整理する。	・知② 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。【観察・記述】
	10	⑬文章の組み立てと、具体的な例の書き方や順序を考える。	・思① 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。【記述・発言】
	11 ・ 12	⑭考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。	・態① 粘り強く書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって自分が選んだ食べ物について文章を書こうとしている。【発言・記述】
4	13	⑮友達と感想を伝え合う。 ⑯「ふりかえろう」を基に、単元の学習を振り返る。	

4 本時の指導

(1) 目標

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。

(2) 評価規準

評価の観点		概ね満足できる (B)	支援を要する児童への手立て
思 判 表	事例の順序に筆者の意図があることを理解している。	「中」の各段落の「おいしく食べるくふう」の内容から、事例の書かれ方の工夫（事例の順序）を見付けることができる。	板書で段落の順序（事例の順序）を入れ替えて見せることで、順序性を視覚的に分かりやすくする。

(3) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 7分	1 前時までの学習を想起する。 ・前時では「中」を学習し、「おいしく食べる工夫」の答えを探したこと。 - 第3段落→その形のまま煎ったり煮たりして、柔らかくおいしくする工夫 - 第4段落→粉にひいて食べる工夫 - 第5段落→栄養を取り出して違う食品にする工夫 - 第6段落→小さな生物の力をかりて違う食品にする工夫 - 第7段落→採り入れる時期や育て方を変えて食べる工夫 ・「中」の段落を要約したこと。 2 本時の学習課題を把握する。 せつ明の仕方のくふうを見つけよう。	・「始め」の隠れた問いが、「どのような『大豆をおいしく食べる工夫』があるのでしょうか」であったことを確認する。 ・「くふう」という言葉に注目して、「おいしく食べるくふう」を見付けたことを確認する。
展開 30分	3 「中」の説明の仕方の工夫を考える。 ・段落の順序（3段落～7段落）を入れ替えるとどうなるかを考え、その順序も工夫されていることに気付く。 （1）自分の考えをもつ ＜順序について考える視点＞ ○大豆の形 ○おいしく食べる工夫（作り方） ○出来上がるまでの時間 ・みんなが知っている順にしたと思う。 ・作り方がだんだん難しくなっている。 ・時間がかかる順だと思う。 ・「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」のような各段落の始めの接続語 （2）グループで話し合う ◎筆者は、どうしてこの順番にしたのかグループで話し合いました。 ・形が残っている順番だと思う。 ・みんなが知っている順番だと思う。 ・作り方の手間がかからない順番だと思う。どんどん作り方の手間が増えているから。 ・例を付け足す（次の段落に移る）ときに、つなげる言葉を使っている。 （3）全体で確認する ・説明の仕方の工夫について、全体で確認する。 ・8段落の筆者の文（「いろいろなすがた」で食べられている理由）にも着目させながら、筆者の事例の説明の順番を理解する。	・板書で段落の順序（事例の順序）を入れ替えて見せることで、分かりにくくなることを感じさせ、視覚的に思考を支援する。 〈対話を生み出すための工夫〉 例示の順序について、入れ替えた時の印象も踏まえながら筆者の意図を考えさせる。また、接続詞の使われ方にも着目させ、筆者の工夫にも気づかせる。 ・接続語などに注目して、説明の工夫を見付けることができる。（発言） 〈対話を充実させるための工夫〉 友達の考えと自分の考えを比べ、似ているところ、違うところを考えさせる。その際、叙述に着目し、形の変化や調理法、接続語などに気付けるようにする。 ・接続語について考えが出にくい場合には、次時の活動の中で注目させ、筆者の工夫として捉えさせる。 ◎ 活動を通して、本文の叙述や言葉を基にして考えることができている。また、順序などの説明の工夫に気付くことができている。 思②【発言・ノート】

終 末 8 分	4 まとめる。	
	・分かりやすくなるように、だん落の順序をくふうしている。 ・つなぐ言葉を使っている。	
	5 本時の学習を振り返る。 ・今日の学習で分かったことをノートに書く。 6 次時の確認をする。	

(4) 板書計画

すがたをかえる大豆 せつ明の仕方のくふうを見つけよう。		問い どのような「大豆をおいしく食べるくふう」があるのでしょうか。		答え	
段落 くふう ・ 調理の仕方(作り方)		③ 大豆をその形のまゝいたり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふう いる いる		食品 豆まきの豆 に豆 黒豆	
④ こなにひいて食べるくふう ひく		⑤ 大豆にふくまれる主なえいようを取り出して、ちがう食品にするくふう ひたす すりつぶす 熱する しぼり出す にがりをくわえる かためる		とうふ	
⑥ 目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう むす ナットウキンをくわえる 一日おく むす コウジカビをまぜる いる つぶす まぜる 半年から一年おく		⑦ とり入れる時期や育て方をくふうする やわらかいうち ゆでる 日光に当てない 水だけ		えだ豆 もやし	

◎ どうしてせつ明がこんなに分かりやすいのだろう。

・ かんたんなものからむずかしいものという順序になっている。(形、調理法)

・ 「いちばんわかりやすいのは」「次に」「また」「さらに」などのつなぎ言葉を使っている。

→

せつ明の仕方のくふう